

地域ケア会議

1. 開催実績

(1) 開催実績(令和3年度～令和4年度12月)

		個別会議(自立支援)		個別会議(困難事例)	地域版地域ケア会議
		定例開催	評価会議	随時開催	随時開催
令和3年度	開催回数	11回	2回	57回	10回
	検討延べ件数	44件	48件	57件	10件
令和4年度 (4月～12月)	開催回数	10回	1回	22回	2回
	検討延べ数	60件	20件	22件	2件

(2) 参加職種

【医療関係者】 訪問看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、リハビリ職員、病院相談員、
臨床心理士・公認心理師

【介護関係】 主任介護支援専門員及び介護支援専門員、介護保険ヘルパー・デイサービス職員

【その他専門職】 障がい者相談支援員、障がい者支援施設職員、福祉用具事業所担当者、住宅供給公社、
コミュニティソーシャルワーカー(生活支援コーディネーター)、くらし相談支援センター、
日常生活自立支援事業専門員、権利擁護センター、市生活福祉課ケースワーカー

【地域】 本人、家族、親族、民生児童委員、福祉推進員、自治会長・区長、地域住民、交番・駐在所、後見人、
公民館

(3) 検討ケース分類: 個別会議(自立支援)

		世帯(人)			年齢(歳)			介護度(人)		
		独居	高齢者 世帯	その他 同居	平均 年齢	最高齢	最年少	事業 対象者	要支援 1	要支援 2
件数	令和3年度	17	7	20	81	97	46	4	17	23
	令和4年度 (4月～12月)	23	12	25	82	97	63	4	16	40

2. 評価会議から見てきた、松江市個別地域ケア会議の成果

(1) 介護支援専門員(ケアマネジャー)の意識の変化(68名)

令和3年度 (R3.10、R4.3) 48名	意識の変化あり	47名	98%
	意識の変化なし	0名	0%
	不明(退職等で聞き取りできず)	1名	2%
令和4年度 (R4.10) 20名	意識の変化あり	17名	85%
	意識の変化なし	1名	5%
	不明(退職等で聞き取りできず)	2名	10%

【ケアマネジャーの声】

- ①「できた事を褒める」との助言を実践し、褒める事で本人のモチベーションに繋がり、意欲を引き出す事が出来た。
- ②痛みが出ないように、本人のしたい事を制限する事ばかり考えていたが、痛みの緩和方法について助言を受け、本人がやりたいことがどうやったらできるようになるかを考えるようになった。

(2)サービス利用の変化(死亡・悪化を除く事例)

令和3年度 (R3.10、R4.3) 29事例	インフォーマル サービスの利用	以前から利用あり	24事例	83%
		会議後に追加した	2事例	7%
		利用なし	3事例	10%
	介護保険サービスの 利用	サービスを追加した	5事例	17%
		サービスを変更した	2事例	7%
		サービスを終了した	1事例	3%
		サービスに変化なし	21事例	73%
R4年度 (R4.10) 15事例	インフォーマル サービスの利用	以前から利用あり	11事例	74%
		会議後に追加した	2事例	13%
		利用なし	2事例	13%
	介護保険サービスの 利用	サービスを追加した	4事例	27%
		サービスを変更した	2事例	13%
		サービスを終了した	0事例	0%
		サービスに変化なし	9事例	60%

【改善事例】

- ①今の食事内容や活動量では体重の増加が進み、病気の悪化や膝・腰への負担がかかると自覚され、食事内容の見直しやごく簡単な体操の助言を取り入れられた。徐々に運動も増え、体重が減少した事で自信がつき、次は近くの商店へ買い物に行く目標を持って生活をされている。
- ②無理をして家事や庭の事をした後動けなくなる事を繰り返していた。入浴の効果の助言を伝えて、入浴回数を増やした事で体の痛みが和らぎ、したい事をした後も動けなくなる事が減った。また肥満気味の体重も徐々に減り、以前より動きがよくなり外出の機会も増えた。

(3)介護度の変化(個別会議(自立支援)評価会議)

令和3年度 (R3.10、R4.3) 48事例	維持・改善	29事例	61%
	悪化	17事例	35%
	死亡	2事例	4%
令和4年度 (R4.10) 20事例	維持・改善	15事例	75%
	悪化	5事例	25%
	死亡	0事例	0%

【悪化の原因】転倒・骨折、病気の進行、脳血管性障害、認知機能の低下、意欲低下

【死亡の原因】病気の進行、肺炎

3. 地域課題

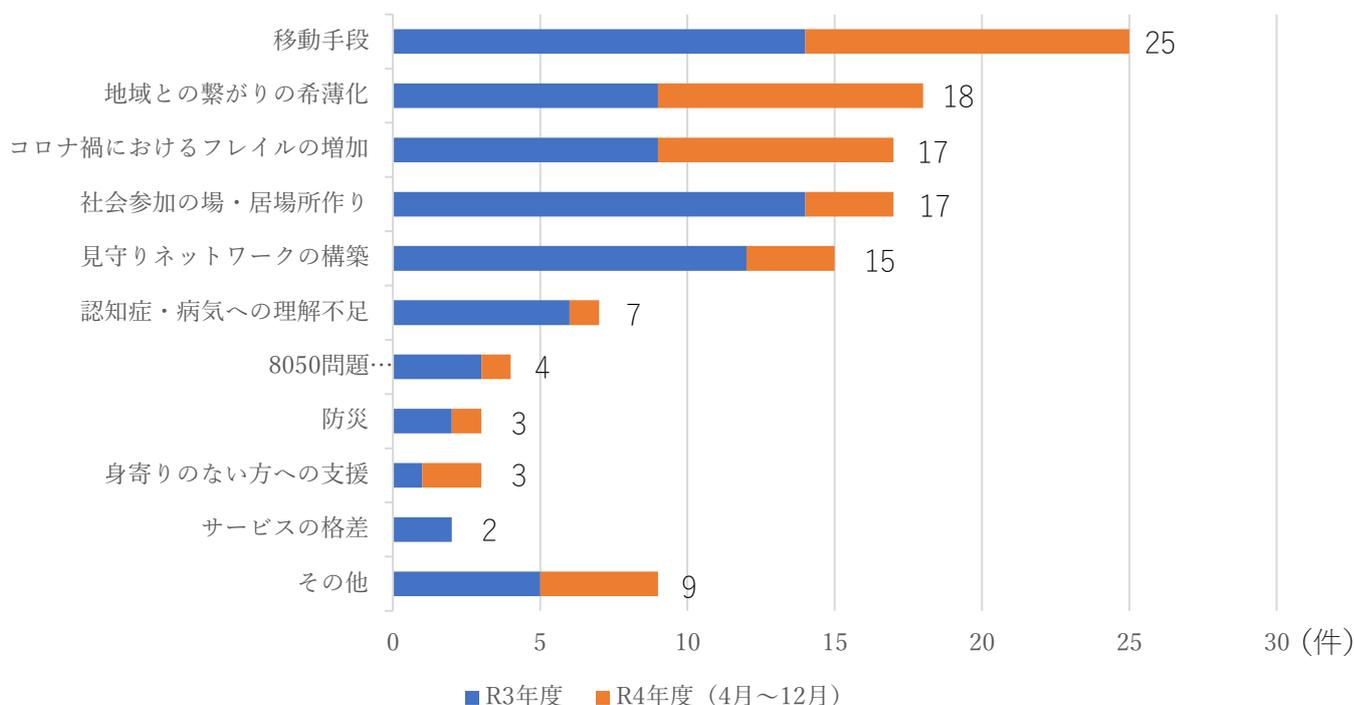
令和2年度から継続して「移動手段」が地域課題として多くあげられている。

また、運転免許証返納後に移動手段がなくなり趣味活動や交流の機会の減少や、新型コロナウイルス感染症の影響で、交流や活動の縮小・制限が続いており、活動の場への参加が少なくなり、意欲低下やフレイル状態に陥るリスクが高まる事例が増えている。

災害時の避難支援や認知症等の理解、身寄りがない方の支援についても継続的に課題としてあがっている。

地域課題	内容
移動手段	運転免許証返納後の通院、買い物、交流や趣味活動の場への移動手段に困る。又は返納後の生活が不自由になるため返納に躊躇する。
地域との繋がりの希薄化	転居や施設入居により、地域との繋がりが途切れやすい、または繋がりが希薄になる。
コロナ禍におけるフレイルの増加	コロナ禍における活動や交流の場の自粛・制限から、活動・交流の減少があり、意欲低下や体力低下がある。
社会参加の場・居場所作り	本人の力が活かせる場や男性が参加しやすい場、サービス卒業後の活動の場の不足。
見守りネットワークの構築	認知症、精神疾患、難病、独居高齢者の見守り支援。
認知症・病気への理解不足	認知症、難病、精神疾患に対する周囲の理解不足から、近隣の支援が得にくい。
防災	大雪や災害時の声かけや避難の支援、周知が十分でない。
身寄りのない方への支援	身寄りのない方の緊急時、施設入居、入院の際の支援が困難。
8050 問題、高齢の親と障害・病気を抱える子の支援	8050 問題。高齢の親と障害や病気を持つ子の世帯で親が要介護状態になっても気が付きにくい、また困窮しやすい。
サービスの格差	地域によって利用できるサービスが限られる、又は利用できない。
その他	視覚・聴覚障害を持つ方への支援。空き家問題。 多頭飼育による悪臭・ゴミ処理等。

地域課題



第 2 層協議体

1. 開催実績

(1) 開催実績（令和 3 年度～令和 4 年 12 月）

29 地区の第 2 層協議体開催状況

圏域別開催回数	松東	中央	松北	松南 1	松南 2	湖南	合計
令和 3 年度	55	32	22	24	33	37	203
令和 4 年度 (4 月～12 月)	36	31	32	20	23	25	167

(2) 第 2 層協議体 参加者属性

地区社協会長・副会長・理事、公民館長・職員、民生児童委員、福祉推進員、町自連、寿会、子ども会、母子保健推進員、交番署長、保護司、健康まつえ 21 代表、青少年育成連絡協議会会長、体育協会会長、生協、商工会、行政支所、行政保健師、郵便局、JA、なごやか世話人、PTA 関係者、地域学校コーディネーター、あったかスクラム代表、社会福祉法人、NPO、地域包括支援センター職員など

2. 第 2 層協議体で検討されている課題

検討課題	課題内容
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り・買い物・ゴミ出し・雪かきなど ・空き家、空き土地問題 ・ペット問題(多頭飼い・飼育スペース)
住民交流の場の不足 (子ども食堂含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に交流の場がない。継続的な活動財源がない
担い手の育成（人材育成）と 仲間集め	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化。担い手の負担感（固定化）。仲間が集まらない。 ・ふくし教育の推進
移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・通院、買い物、交流の場等への移動手段が少ない ・公共交通機関との共存
要配慮者への見守りの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の増加。コロナで集いができず見守りに切り替え
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の要配慮者の避難 ・当事者を交えた避難訓練の実施
障がい（認知症含む）への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児者や認知症への理解を進める
健康づくり・フレイル予防	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のフレイルを予防するための取り組み ・屋外でのメニュー開発

3. 第2層協議体で検討されている課題からの実践

(1) 生活支援

- ・生活支援型サービスの実施(ワンコインサービス)
- ・地域に点在する空き家、空き土地を活用した取り組みの実態把握(調査)を実施

(2) 住民の交流の場

- ・子ども食堂の開設支援

(3) 担い手の育成

- ・学校への「ふくし教育」を題材とした「もんじゅの知恵」プログラム授業の開催
- ・企業との連携
 - ①認知症スイングポップの活用
 - ②研修会等の開催

(4) 移送の取り組み

- ・通いの場への送迎サービスを実施する団体を組織化
 - ①なごやか寄り合い会場への送迎

(5) 防災の取り組み

- ・当事者(車いす)、支援者(民生委員・福祉推進員)の避難訓練の実施
- ・団地丸ごと避難訓練の実施

(6) 健康づくり・フレイル予防

- ・コロナ禍における屋外での活動を促進
 - ①朝市の活用
 - ②スタンプラリーの導入
 - ③健康まつえ21との連携事業実施